

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和4年 10月4日

佐久市教育委員会

1 調査の概要

- (1) 調査日 令和4年 4月19日(火)
- (2) 調査対象 小学校6年生、中学校3年生、学校
- (3) 調査内容
 - ①児童生徒に対する調査(小学校6年・中学校3年)
 - ・教科に関する調査:国語、算数(数学)、理科(理科は、3年に一度の調査 本年度が該当年度)
 - ・学習意欲、学習環境等に関する調査(児童・生徒質問紙)
 - ②学校に対する調査(学校質問紙)

2 教科に関する調査

◎平均正答率、①正答分布状況・無答率、②領域や観点から、③設問に対する状況・課題

(1) 小学校国語

◎ 全国と比べ、「やや上回る」

- ① [正答分布状況] 出題数14問中11問以上正答の児童の割合が全国を上回る。全国と比較して上方に分布している。無答率は全国を下回った。
- ② 領域では「我が国の言語文化に関する事項」を除き、全て全国をやや上回る。また、観点別では「知識・技能」は全国と比べて同じだが、「思考・判断・表現」はやや上回る。
- ③ 「書くこと」の領域は正答率では全国より上回っているが、全問中で最も低い正答率で課題となる。記述式解答の正答率が高いことも含めて、各問題に粘り強く取り組んでいる様子が見える。

(2) 小学校算数

◎ 全国と比べ、「ほぼ同じ」である

- ① [正答分布状況] 16問中14~16問の正答及び0~5問正答の児童の割合が低く、中央への分布が多い。無答率は全国を下回った。
- ② 領域別では「変化と関係」で全国と比べてやや下回るが、他領域はほぼ同じである。
- ③ 「数と計算」で数の適切な処理の仕方を考える設問、「変化と関係」で割合を問う設問で正答率が全国を下回った。数式や言葉を用いて記述表現する「思考・判断・表現」を今後の課題とした。

(3) 小学校理科

◎ 全国と比べ、「ほぼ同じ」である

- ① [正答分布状況] 17問中11~15問正答の児童の割合が全国を上回る。全国と比較して上方に分布している。無答率は全国を下回った。
- ② 「『粒子』を柱とする領域」が全国とほぼ同じで、他の領域はやや上回っている。
- ③ 実験の方法や実験結果について、自分の考えをもちその内容を記述する「思考・判断・表現」に関わる正答率は全国をやや上回った。しかし、正答率そのものはほぼ半数に止まっており、課題となる。全問中正答率が最も低かったのは、実験器具の名称を問う問題だった。

(4) 中学校国語

◎ 全国と比べ、「やや下回る」

- ① [正答分布状況] 14 問中 1～10 問正答の生徒の割合が全国を上回り、11～14 問正答の生徒の割合は低い。全国と比較して下方に分布している。無答率は全国を上回った。
- ② 領域では「知識・技能」にかかわる「情報の扱い方に関する事項」、「思考・判断・表現」にかかわる「話す・聞くこと」「書くこと」が全国と比べ下回った。「読むこと」は全国と比べほぼ同じであった。
- ③ 「情報の扱い方に関する事項」で「書くこと」に関わる記述形式の正答率が半数を割り、一番の課題となる。「話すこと・聞くこと」では相手に分かりやすく伝わる表現の工夫、「知識・技能」では「比喩」「行書の特徴」で正答率が低かった。「思考・判断・表現」に関わる無答率が全国を上回ることから、設問の意図を読み取り、粘り強く考える姿勢も大事にしたい。

(5) 中学校数学

◎ 全国と比べ、「やや下回る」

- ① [正答分布状況] 14 問中 2～11 問正答の生徒の割合の間に3つの集団の分布がみられる。12～14 問正答の生徒の割合が全国より低い。無答率は全国を上回った。
- ② 領域では「図形」「関数」が全国と比べて下回っている。観点では「知識・技能」は全国とほぼ同じであるが、「思考・判断・表現」では下回っている。
- ③ 「図形」領域の証明では、正答率が全国の半分に止まった。また、「関数」「データの活用」では筋道を立てて数学的な表現を用いて説明することに共通した課題がみられた。「素因数分解」は高い正答率を示す一方で、連立2元方程式の正答率は7割弱と全国をやや下回った。

(6) 中学校理科

◎ 全国と比べ、「ほぼ同じ」である

- ① [正答分布状況] 正答数は全国と比較するとやや下方に分布している。また、21 問中 15～21 問正答の生徒の割合が低い。無答率は全国を下回った。
- ② 「エネルギー」「地球」の領域の正答率そのものは4割台と低い。しかし、全国との比較でみると、「粒子」「生命」「地球」がやや下回るものの領域の偏りはあまり見られない。
- ③ 「エネルギー」の「力の働き」の「知識・技能」、「地球」の「気象とその変化」で複数の資料を関連付けた考察で正答率がやや低かった。設問の条件に十分に留意したり示されたデータを丁寧に分析し解釈したりすることが重要になる。その点からも実験や考察を重視した日常の授業を継続したい。

3 学習状況等に関する調査（小学校6年児童及び中学校3年生徒への質問紙調査 抜粋）

(1) 「自分にはよいところがあると思いますか」

小学校では「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的に回答する児童と、「将来の夢や目標を持っているか」という質問に肯定的に回答する児童はともに80%であった。中学校では、肯定的に回答する生徒75%に対して、「将来の夢や目標を持っているか」に肯定的に回答する生徒は68%とやや下がる。自己肯定感が将来の夢や目標につながっていると考えられる。

また、「先生はよいところを認めてくれていると思うか」という質問に、小学校は90.2%、中学校は88%が肯定的に感じており、教師への信頼感は共に高いといえる。

(2) 「授業時間以外に、平日1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」

小学校では「1時間以上、2時間より少ない」児童が最多で36.7%、次いで「30分以上、1時間より少ない」が32.0%だった。「全くしない」「30分より少ない」は12%余り。中学校では「1時間以上、2時間より少ない」生徒が最多で44.2%、次いで「2時間以上、3時間より少ない」22.6%、「30分以上、1時間より少ない」20.6%と続いた。一方、平日2時間以上テレビや情報端末を利用したゲームをしている子どもは小学校で37.6%、中学校で44.8%おり、うち4時間以上との回答は小学校8.3%、中学校11.8%と高い数字だった。

学習時間は全国・県と比較すると少ない様子がみられ、ゲームなどのかかわりを含めた学習習慣の定着が課題となる。

(3) 「授業以外で普段、平日1日当たりどれくらい読書をしますか」

「読書は好きか」という質問への肯定的な回答は小学校82%、中学校72%だった。しかし、読書時間は、小学校では「全くしていない」「30分より少ない」児童が全体の約58%で、「全くしない」18%の読書離れが心配される。中学校では「全くしていない」が30.4%、「10分以上、30分より少ない」が23.5%と続く。また、新聞を「ほとんど読まない」「全く読まない」は、小学校65.2%、中学校68.7%だった。

本・活字に親しむ機会・場を大事に位置づけたい。

(4) 「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」

小学校では肯定的な回答の児童は95%になる。「友達との意見交換」「自分の考えをまとめ、発表」する場面での活用が、「ほぼ毎日」「週3回以上」と回答した児童がともに17%台だった。中学校では肯定的な回答の生徒は91%になる。しかし、「友達との意見交換」で「ほぼ毎日」「週3日以上」が11%、「自分の考えをまとめ、発表する場面」では7.9%となった。

小中ともに全国・県と比較すると使用頻度はやや低い。今後、授業や家庭学習におけるICT機器の有効活用について研究を進めたい。特に中学校でのICT機器の有効活用を広げたい。

(5) 「5年生までに（中学2年生のときに）受けた授業では、課題の解決に向け自分で考え、自分から取り組んでいましたか」

肯定的な回答は、小学校が80.5%、中学校が82.4%と、ともに高かった。学びに向かう子どもたちの前向きな姿がうかがえる。「主体的に学習に取り組む態度」の育成は、「子どもの主体性を引き出す授業」を行うことでもある。

「授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたか」という質問に対しては、否定的な回答は小学校で14.3%、中学校で21.1%と、全国・県との差は大きくはみられなかったが、今後の課題としたい。

(6) 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」

小学校では83%の児童が肯定的に回答し、友達と学び合うよさを感じている。中学校では72.8%の生徒が肯定的に回答している。生徒は、話し合いを通じた学び合いの有用性を感じていると考えられる。今後、大事に受け止めたい授業改善の視点の一つである。

(7) 「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」

小学校では63%の児童が肯定的に回答する一方で、36%の児童は否定的に回答している。中学校では57.3%の生徒が肯定的に回答したが、全国・県より6%ほど低かった。

発表の場を大切に位置づけることに止まらず、視点を明確にした具体的な支援を通して子どもの

資質・能力を伸ばしていきたい。

4 改善の方向

各校、学力にかかわる課題は異なるので、ここでは今回の調査問題や調査項目にみられる市全体の傾向から改善の方向を記す。各校においては、昨年度実施している CRT 検査からの考察と重ね合わせ、自校や児童生徒にみられる課題を明確にしたい。

く ①今回の設問にかかわって ②③教科指導全体にかかわって 〉

(1) 【国 語】 漢字などの知識・技能面と比べ、文章全体の構成や展開を把握したり考えの根拠を明確にしたりして「書くこと」(小中学校)や、話し方の工夫について自分で考えて表現する「聞くこと・話すこと」(中学校)に課題が見られた。そこで、

① 「書くこと」については、小学校では「内容や記述にみられる具体的なよさ」「書こうとしたことの明確さ」「文章全体の構成や展開の明確さ」など学年に応じた系統的な指導を進める。中学校では、自分の考えを支える根拠として資料を適切に引用することなどができるように指導を重ねたい。また、「聞くこと・話すこと」では、論理の展開を聞き取ったり、相手意識に立って自分の考えを伝える工夫を考え合ったりするなどの指導を大切にしたい。

② 説明文や物語文などの多様な文章を扱う際に、文章全体の構成、登場人物・心情の変化、表現の効果などについて、自分なりに考えをまとめたり友だちと意見を交換し合ったりして、叙述に基づいて考え深め合う学習を日常的に大事にしたい。また、今回初めて設問に取り入れられた、文章に対する感想や意見を伝え合い自分の文章の良いところを見つけたり書き加えたりするなどの学習も位置づけたい。

③ 図書館の活用、本・活字に親しむ活動など豊かな言語環境を整えるなかで、児童生徒の語句や表現語彙を豊かにしたい。

(2) 【算数・数学】 基礎的知識や技能を基に数を処理したり条件に当てはめて考えたりすることはできるが、場面にあった数の適切な処理の仕方を考えることや、図形や関数などで筋道立てて数学的に説明すること(中学校)に課題が見られた。そこで、

① 「数と計算」(小学校)では、目的を明確にさせうえで数の処理の適切さを判断したり、日常生活に対応させて思考したりする指導の工夫を図りたい。図形では与えられた条件を整理し性質や関係を見い出したり、関数では表や式、グラフなどのもつ意味や問題解決への見通しを明確にしたりする指導を大切にしたい(中学校)。

② 日常生活の場面にみられる数学的な事象を教材化して、問題解決の過程や結果を図や式などを用いて数学的に表現し伝え合う活動を学年に応じて系統的に進める。その際、友だちと考えを伝え合い目的や着眼点などを明らかにして、筋道を立てて表現する授業の充実を図る。

③ 「思考・判断・表現」の育成のためにも基礎的・基本的な「知識・技能」の習得が欠かせない。日常の見とどけを丁寧に行い、指導の工夫と改善に努める。

(3) 【理 科】 「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点による大きな差異はみられなかったが、各領域において実験結果を問題の視点で分析・解釈して、その内容に基づき根拠を示して記述すること(小学校)や、「エネルギー」で他者の考えの妥当性や実験計画の適切さを検討したりすること(中学校)に課題がみられた。そこで、

① 小学校では、観察、実験結果の差異点や共通点に着目して考察したり、具体的な数値や分析内

容を根拠として表現したりするなど、視点を明確にした指導を大切にしたい。中学校では、実験結果の処理を振り返り、条件を吟味して実験計画を検討、改善するなどの学習活動の充実を図りたい。

- ② 日常の授業において、子どもが有する知識・技能と身近な現象とを関連付けて科学的に探求する場面を繰り返し設定する。そして、観察や実験を重視した、子どもが実感できる授業を継続したい。また、学習の中で見出した規則性や関係性を、日常生活と関連付けることで、学ぶ意義や有用性の実感を高めさせたい。

(3) 【全体考察から大切にしたいこと】

- ① 多くの子どもが授業の中で互いの考えを伝え合いながら学び合う学習のよさを感じている。自分の思いや考えを安心して語ったり友だちの多様な意見を認め合ったりする人間関係、学級集団づくりを学習集団の基盤としたい。
- ② 子どもに向き合う教師の意識や教材研究の深さが子どもの考えを柔軟に受け入れ、子どもの主体的な活動を促し、学びの質を高める。子ども理解、素材研究、教材化の研究など教師自身の主体的研修とともに、日常的に学び合う教師集団づくりに努めたい。
- ③ 個に応じた指導を図ったり探究的な学習を進めたりするなど、多様な子ども一人一人の主体的な学びを支え育む実践を重ねたい。
- ④ 社会状況の変化から、ICT 機器を活用した学習の進展が著しい。個人学習や「調べる」といった学習だけでなく、協働的な学びを促す視点からも ICT 機器を活用した授業実践や研修を進めたい。
- ⑤ 家庭との連携を図りながら、メディアとの関りも含めて規則正しい生活習慣の確立や家庭学習・読書の習慣化などに努める。

(4) 今後の学力向上・授業改善に向けて

- ① 校長会で、佐久市および各校の結果と分析等を持ち寄り、学力向上・授業改善の視点から今後の取組の方向について協議する。
- ② 各校では、校長会の協議や自校の実態をもとに、研究主任等を中心に教職員と情報共有を深めながら、自校の課題解決に向けた取組を明確にして授業改善を図る。
- ③ 中学校区教育推進委員会を通し、小中及び小学校間の連携を生かした取組の充実を図る。(年度末に経過、状況を見返して、実施報告書に記載して引き継ぐ。)
- ④ 中学校研究主任会を開催し、中学校間の連携を図り、学習指導にかかわる情報交換、授業改善を進める。
- ⑤ 各校の調査結果と今後の取組については、学校だよりなどを通して保護者に伝えるとともに理解と協力を得る。